

メニュー名：

● メニューのねらい

● メニュー内容

▼メニューの概要

▼企画・実施で工夫した点

▼他メニューとの連携

▼開催までのスケジュール

～4か月前

～3か月前

～2か月前

当日

● 実施結果

▼事業実績

- ・アウトプット：目標〇〇
実績〇〇
- ・アウトカム：目標〇〇
実績〇〇

▼メニュー参加の効果

▼参加者の声

▼上手くいかなかった点

メニュー名：雇用環境改善セミナー（令和〇年〇月実施）

● メニューのねらい

地域外への人材流出が深刻となっている中、高齢者や子育て中の未就労者などでもライフスタイルに応じた働き方ができるよう、地域企業が就業規則や雇用管理等の改善方法を学び、働きやすい職場作りを目指す。

● メニュー内容

▼メニューの概要

・メインの対象は、●●業の幹部職員や人事担当者。2時間×3日で、主には●●●、●●●について習得する。参加者が自社の課題を持ち寄り共同で解決策を検討するワークショップ形式も導入。

▼企画・実施で工夫した点

- ✓ カリキュラムの中で、地域内の先進企業の事例を紹介したが、企業の選定に当たっては、地域の経済団体と連携して情報収集した。
- ✓ 実際に先進企業に協議会として訪問し、リモートワークの導入方法や働き方改革についてヒアリングを行った。

▼他メニューとの連携

- ✓ Bメニューの「ものづくりの魅力体験セミナー」に参加した求職者にあらかじめアンケートを配り、どんな企業で働きたいのかを記載してもらい、セミナーの中で紹介した。
- ✓ セミナー終了後も事業所訪問を行い、Cメニューの面接会の参加をよびかけ、メニュー間での連動を図った。

▼開催までのスケジュール



● 実施結果

▼事業実績

- ・アウトプット：目標〇社 実績〇人
- ・アウトカム：目標〇人 実績〇人

▼メニュー参加の効果

- ✓ メニュー受講後、実際に就業規則や福利厚生を見直した企業が3社あった。
- ✓ そのうち2社は、さらなる働きやすい職場作りを目指すべく、別途Aメニューの「製造業における労働生産性向上セミナー」も受講した。

▼参加者の声

- ✓ 自社は工場勤務を前提とした働き方となるため、多様な働き方を進めることは困難であると考えていたが、きめ細かなシフト制の導入や、輪番制によるリモートワークのような制度を導入することで、できることから始めていくことが大切であると感じた。（食品製造業）

▼上手くいかなかった点

- ✓ ワークショップについて、異なる業種の事業所が同じグループになり、解決策の検討が進みづらいという意見があったため、業種ごとにグループ化することも必要であると感じた。

メニュー名：ものづくりの魅力体験セミナー（令和〇年〇月実施）

● メニューのねらい

若者や子育て世代等に、時代に合わせて変化しているものづくり現場の就労体験を経験してもらうことで、ものづくりに関わり仕事をすることの楽しさややりがいを学び、業務改善能力を習得しつつ製造業を希望業種として選択肢に入れてもらうためのセミナーを開催する。

● メニュー内容

▼メニューの概要

・メインの対象は、製造業での勤務経験のない求職者。講義構成は2時間×3日で、初日は地元企業の働き方改革や設備の自動化について紹介するほか、育児と両立している技術者による業務経験談を講演。2日目以降、チームでの生産ライン改善のワークショップを実施。

▼企画・実施で工夫した点

- ✓ 県やハローワークなど関係機関が実施する求職者セミナーと日程や講義内容が重複しないよう、あらかじめ協議。
- ✓ 講師は、市の産業振興課とともに実務経験のある者を選定。
- ✓ 周知に当たっては、ハローワークにおける雇用保険説明会での紹介や、子育て支援カフェ等でのチラシ配架を実施。

▼他メニューとの連携

- ✓ 昨年度にAメニューに参加した企業のうち、特に現場の業務改革に乗り出していた2社について、その取組内容を働き方改革の事例として紹介。
- ✓ セミナー終了後も、製造業での勤務に意欲的だった求職者に個別に連絡を取り、Cメニューの「工場見学会」への参加を促した。

▼開催までのスケジュール



● 実施結果

▼事業実績

- ・アウトプット：目標〇人
実績〇人
- ・アウトカム：目標〇人
実績〇人

▼メニュー参加の効果

- ✓ メニュー受講後、ハローワークに新たに求職登録をした方が8人おり、さらに5人が就職した。（うち製造業3人）
- ✓ ものづくり分野の知識、技能をさらに深めるため、ポリテクセンターの職業訓練を申し込んだ方が1人いた。

▼参加者の声

- ✓ 実際に手を動かして組み立てたり、改善の工夫を考えたりする体験がとても面白かった。また、働き方改革が進む現場の状況も知り、自分でもものづくりの仕事に挑戦できそうと感じた。（参加求職者）

▼上手いかなかった点

- ✓ 参加者によっては、ワークショップで扱った題材が難しいと感じた方もいるため、説明資料などでは、極力専門用語を使わずに分かりやすさ重視で作成したほうがよいと感じた。

メニュー名：合同企業説明会・面接会（令和〇年〇月実施）

● メニューのねらい

重点分野である「製造業」や地域の人手不足産業を中心に、採用に意欲的な事業所と、地域内求職者のマッチングを図るため、合同企業説明会・面接会を実施する。

● メニュー内容

▼メニューの概要

・事業所ごとにブースを設け、求職者が希望するブースを訪問し、相談又は面談を行う。求職者には、簡単に職歴や自身のアピールポイント等を記載した自己紹介カードを持参するように勧奨。さらに、参加事業所の個別チラシを閲覧できるように、資料コーナーを設置。

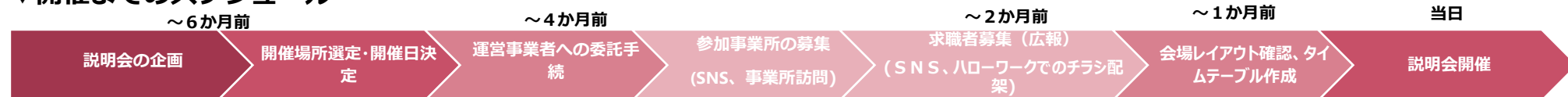
▼企画・実施で工夫した点

- ✓ 県やハローワークなど関係機関が実施する企業説明会と日程やが重複しないよう、あらかじめ協議。
- ✓ 説明会には、ハローワークブースを設けて、企業との面談前後に職業相談ができる環境を整備。
- ✓ 子育て世代の参加しやすいよう、無料の託児スペースを設置。

▼他メニューとの連携

- ✓ 開催2か月前に、Aメニュー「採用力向上セミナー」において、本面接会に参加する求職者へ配布するためのチラシ作成指導を実施。
- ✓ 開催1か月前に、Bメニュー「就職準備セミナー」を開催し、本面接会に参加する事業所に配布するための自己紹介カード作成指導を実施。

▼開催までのスケジュール



● 実施結果

▼事業実績

- ・アウトプット：目標〇社、〇人
実績〇社、〇人
- ・アウトカム：目標〇人（企）
実績〇人（企）
目標〇人（求）
実績〇人（求）

▼メニュー参加の効果

- ✓ 面接会に参加後、ハローワークを通じて参加事業所の職場見学に繋がった人が10人いた。
- ✓ 週20時間以上の就職にはならなかったものの、週20時間未満の就職を果たした人が5人いた。

▼参加者の声

- ✓ 普段の採用活動では得られない、多様なバックグラウンドを持つ求職者との接点を持てたほか、事前に求職者が作成した自己紹介カードにより、面談の際にスムーズに質問や説明ができ、個々のスキルや希望条件を的確に把握することができました。（半導体製造業）

▼上手くいかなかった点

- ✓ 自己紹介カードについて、Bメニュー参加者の持参率は100%だったが、それ以外の求職者の持参率が低かったため、カードの構成を簡素化しつつ、開催前の周知を徹底する必要があると感じた。